

クの判定はできなかった。なお、平成 21 年度の環境中への総排出量は約 220 t であったが、そのすべてが大気へ排出されており、蒸気圧も高いことから、本物質の経口曝露による健康リスクの評価に向けて経口曝露量の知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。

吸入曝露については、一般環境大気中の濃度についてみると、平均曝露濃度は 0.084 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度、予測最大曝露濃度は 2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度であった。無毒性量等 12 mg/m^3 と予測最大曝露濃度から、動物実験結果より設定された知見であるために 10 で除し、さらに発がん性を考慮して 5 で除して求めた MOE (Margin of Exposure) は 120 となる。一方、化管法に基づく平成 21 年度の大気への届出排出量をもとに推定した高排出事業所近傍の大気中濃度 (年平均値) の最大値は 21 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であったが、参考としてこれから算出した MOE は 11 となる。このため、本物質の一般環境大気の吸入曝露による健康リスクの評価に向けて吸入曝露の情報収集等を行う必要性があると考えられる。

| 曝露経路 | 有害性の知見 | | | 曝露評価 | | リスクの判定 | | | 評価 |
|------|------------------------------------|-----|------------------|--------|--------------------------------------|--------|-----|---|-----|
| | リスク評価の指標 | 動物 | 影響評価指標 (エンドポイント) | 曝露の媒体 | 予測最大曝露量及び濃度 | MOE | - | x | |
| 経口 | 無毒性量等 - mg/kg/day | - | - | 飲料水 | - $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$ | MOE | - | x | () |
| | | | | 地下水 | - $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$ | MOE | - | x | |
| 吸入 | 無毒性量等 12 mg/m^3 | ラット | 尿管の変性、肝細胞の変性など | 一般環境大気 | 2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | MOE | 120 | | () |
| | | | | 室内空気 | - $\mu\text{g}/\text{m}^3$ | MOE | - | x | |

4. 生態リスクの初期評価

本物質については、環境中濃度及び生態リスク初期評価に必要な有害性情報が得られず、生態リスクの判定はできなかった。

化学物質排出把握管理促進法に基づいて公表された本物質の届出排出量は、排出量の届出があった全ての年度 (平成 13 ~ 21 年度) において、大気への排出量のみが届出られており、公共用水域への届出排出量は、全ての年度において 0 $\text{kg}/\text{年}$ であった。

本物質の媒体別分配割合について、平成 21 年度の環境中への排出量に基づき、多媒体モデルを用いて予測すると、全てが大気に分配されるという結果になった。本物質の蒸気圧は高いことから、大気から水質へ移行する可能性は低いと考えられる。

したがって本物質については、水質からの曝露による水生生物の生態リスク初期評価に向けて、情報収集を行う必要性は低いと考えられる。

| 有害性評価 (PNEC の根拠) | | | アセスメント係数 | 予測無影響濃度 PNEC ($\mu\text{g}/\text{L}$) | 曝露評価 | | PEC/ PNEC 比 | PEC/PNEC 比による判定 | 評価結果 |
|--------------------|---------|---------|----------|---|------|--|-------------|-----------------|------|
| 生物種 | 急性・慢性の別 | エンドポイント | | | 水域 | 予測環境中濃度 PEC ($\mu\text{g}/\text{L}$) | | | |
| - | - | - | - | - | 淡水 | - | - | x | |
| | | | | | 海水 | - | - | | |

5. 結論

| 結論 | | | 判定 |
|-------|----------------------|-------------------------------------|-----|
| 健康リスク | 経口曝露 | リスクの判定はできなかったが、情報収集を行う必要性は低いと考えられる。 | () |
| | 吸入曝露 | 情報収集等の必要があると考えられる。 | () |
| 生態リスク | 現時点では作業の必要はないと考えられる。 | | |

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、△：情報収集に努める必要がある、□：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
()：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、()：情報収集等の必要があると考えられる、(-)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す